

今月の
テーマ

新年にはライフプランを描こう

世の中、分かっていてもなかなか出来ないことが多くある。禁煙もダイエットも貯金も宿題も、そのどれもが計画的にやらなければならないこと、誰もが大切なことは100も承知なのに、これがなかなか出来ないんだなあ…。

誰もが、それぞれの人生での夢があり、目標もある筈だ。それが、“何もせずに叶えば良いなあ”と口を開けて待っているだけでは向こうからやってはこない。夢や目標が具体的になっていないのであれば、なおさらのことだ。

「ライフプラン」(生活設計)というのは、先ずその夢や目標を明らかにするところから始まる。つまりは人生設計だ。そして、その人生設計は仕事や資格、趣味や旅行とあらゆることが対象だ。では何故、計画的に取組まなければならないのだろうか…。

“ローマは一日にしてならず”

「すべての道はローマに通ず」と言わされたほど繁栄した、あのローマ帝国でさえも、築くまでには約700年もの歳月を費やし、長い苦難の歴史の上に築かれたもので、決して短期間で完成するものではないということだ。人生は700年も続かないが、それでも今や人生100年と言われるまでに長くなり、長寿はめでたいことだが、それなりの資金準備も必要だ。“いつもお金のことばかり言いやがって、人生金が全てではない”との声も聞こえてきそうだが、現代社会ではある程度のお金がないと生きてはいけない。夢や目標にしても、ある程度の資金準備が必要とするものも少なくないはずだ。それを意識した者と、しなかった者の差は無限大に広がっていく。どれだけあれば良いかは、夢や目標によっても違うし、人それぞれだ。生活設計(人生設計)を意識するということは、今の生き方を変えることに他ならない。

つぶやき
がんちゃんの

生活知恵袋

生活に何かと役立つ連載コラム

Vol. 139

● ライフプランとお金と “じいろ”

ライフプランが具体化してくると、その夢や目標を実現するためにいくらかかるかも見えてくる。とりわけ、多額の資金を要するライバント(住宅取得などの実現には、長期的な視野での計画的な資金準備が必要となる)が見えてくれば、毎月の積立金額も見えてくる。しかし、事はそう簡単にはいかない。限られた収入の中でやり繕りするには、家計そのものの見直しをする必要がある。つまり、ライフプランニングと資金計画は表裏一体をなすもので、避けては通れない。お金のことばかりを言うようで恐縮至極ではあるが、あの相田みつを「さんも、こう言っている。

かねが人生のすべてではないが

有れば便利 無いと不便です

便利のほうがいいなあ

人が生きていく上では一定のお金が必要

だが、お金で幸福は買えない。周りが客観的に見て、お金もあり幸せそうに見える人でも、本人が幸せを感じていなければ、それは幸せではない。逆に少しのお金しか持たない人でも、幸福感に溢れている人もいる。なぜなら、自分の幸福感は自分の心の状態であり、主観的世界だからだ。人間の心ってややこしいなあ。

しあわせはいつも自分のところがきめる
またまた「相田みつを」さんの言葉だ。
夢や目標もある意味では幸福を得るために



● つぶやきがんちゃん
● 薩藤 廣勝(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®サークルファイアードファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談
メニュー

- ✓ 家計の総合診断(ライフプラン)
- ✓ 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- ✓ 住宅取得、住宅ローンの見直し
- ✓ 子どもの教育資金計画
- ✓ 年金・老後資金計画

相談料は
無料です!!

TLS

total life support

募集代理店

株式会社
トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

● 営業時間 / 9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)

● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611

Fax 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでも
ご覧いただけます。

● 紳士服のコナカ

● すづきクリニック

● エネオス

● 新国道

● 山手字路

● マクドナルド

● 洋服の青山

ものである。それ 자체は主観的ではあっても、その実現のためには客観的な資金計画に裏打ちされた実効性を持たせなければ、「絵に描いた餅」になってしまふ。2021年の正月は家族全員が「ライフプラン」を描いてみようではないか。

● それぞれの「ライフプラン」と家族での共有

「ライフプラン」は家族共有的なものだけではなく、一人一人に存在するはずだ。そして、その夢や目標が資金準備を必要とするものであれば、家族で共有しなければならない。パパの目標、ママの目標、お兄ちゃんの目標、お姉ちゃんの目標、そして家族の目標を書き出してみよう。もちろん、お金のかかることだけではない。内面的な努力目標だったり、生き方そのものだつたりと、その違いによる境目はない。家族がそれを知ることは、とても大切であるし、共有することによって応援や協力が生まれるというものだ。家族全員がそれぞれの夢や目標を知り、それを尊重し合うことは家族間の関わりにとって、とても大切なことだ。一つのチームの一員としての自覚を持つた関わりは、深い絆に結びつくものだが、近年、この家族間の絆が薄れ、バラバラ感さえ漂っているようにも思えるのは私だけだろうか…。

2021年の正月は、家族それぞれがライフプランについて考え、家族の進むべき将来の方向性についての話し合いをしてみよう。何かを始めるには、きっかけがあれば始めやすいものだし、一年のスタートである正月は絶好のタイミングだ。

● 人生の三大資金のブランディング

人生上、最も高額な資金を必要とするのが、三大資金と言われる「住宅購入資金」「子どもの教育資金」「老後の生活資金」だ。▼住宅購入は、人生最大の買い物と言われるだけに、慎重なブランディングが必要とされる。漠然と貯めるのではなく、いつ頃にいくら位の物件を購入するかが前提でなければならない。

- ①購入予算の想定
- ②頭金の準備額の決定と準備方法
- ③融資金額の想定シミュレーション（融資金額・返済期間を想定した返済プランの試算）

これらを勘案し、ローンを組むのは〇〇万円とし何年間で返済するといった具合だ。

▼教育資金に関しては、まずは子どもの将来を前提とした、本人の希望する夢や目標を、家族で話し合うことから始めよう。

①子どもの進路に対する方向性を想定

②進路に応じた必要資金の総額を試算

③資金準備の方法を決定

（準備済みの学資保険、貯蓄の取り崩し、家計からの支出、奨学金の利用、教育ローンなど）

▼老後資金に関しては、兎にも角にも、老後をどう生きるかをデザインするところから始めたい。退職後の旅行や趣味、最近では農地を借りての家庭菜園を楽しむなどの夢も多く、実際プロ顔負けの人もいるようだ。いずれにしても、描いたデザインに基づく計画を立てなければならない。

①ライフデザインに基づく生活費・必要資金の試算

②リタイア時の預貯金と年金額（公的・私的）の確認

③不足する資金額の試算

④不足資金に対する準備手段の決定

以上、人生の三大資金について簡単に触れたが、本来こんな簡単な解説では実際の行動に移すのは結構大変な作業だ。機会を見て、それぞれについて改めて触れようと思うが、誌面での解説だけでは限界があるし、いつも言っているか「かりつけのホームドクター」と連携し実効性のあるプランを作り上げほしい。先ずは、2021年の正月には「ライフプラン」を立てるなどを始めていただきたい。

● もう一つの資金計画「マイカー購入」

交通インフラの整備からしても秋田県については、マイカーの存在はまさに足とも言え、今や一家に一台どころか一人に一台という

状況だ。また、単純に足としての域を超えて、家族でのレジャーや趣味などの利用などなど、実に多岐にわたる。そんなニーズもあり、近年の自動車は安全性や快適性、はたまた居住性をも含め、高性能・高機能化している。当然に、価格面でも高額化が進み、他の耐久消費財とは比較にならないほど高額になってしまった。車の購入費も然ることながら、ガソリン代、タイヤ代、オイル交換、車検、販売店でも強力に進めているし、日々のお支払い金額を抑えられ、3年・5年後ごとに新車に乗り換えられます。憧れのワンランク上の新車が手に入ります」というものだ…。そんなにうまい話はあるのだろうか…!? これにハマつたら、もはやこのサイクルから逃れられなくなってしまい、延々とクレジットの支払いが続くことになってしまうかねない。

あらつ…！

今月は、「ライフプランを描こう」というテーマだったが、いつの間にか残クレ（残債設定クレジット）の話まできてしまった。もうここまで来たら止められない。家計の健全化を図る上でも大事な問題だけに、中途半端にするわけにはいかない。「残クレ」のメリット、デメリットを考えてみよう。とは言つても、もう余白が残っていない。続きを次号で解説する。新年早々からまたまた脱線だが、旅行もうだが「寄り道も、迷いも、また楽し」だ。2021年もヨロシク！

● 来月号は

本来であれば金融リテラシーに戻るところだが、ここまで脱線してしまったと急には戻れなくなってしまった。今年も荒れそうな気もするが、近年、急増する「残債設定クレジット」の正体を考えてみよう。